

# 下野市立国分寺東小学校

## 1 学校課題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指して  
～算数科における「対話的な学び」の充実～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

令和5年度まで、本校では ICT 端末を利活用した「対話的な学び」の充実を目指して研究を進めてきた。活用場面や指導方法について研修し授業に取り入れたことにより、児童の ICT 端末操作スキルは向上し、様々な学習場面で活用できるようになった。しかし、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の結果から、自分の考えを表現する力に課題があることが分かった。具体的には、記述式問題の正答率が本校の他の問題の正答率に比べて低く、条件を満たして記述すること、算数科において式の意味や考え方を図や言葉で説明することに課題があった。これは、ここ数年共通する課題である。

これらの課題を改善するため、昨年度よりサブテーマを「算数科における『対話的な学び』の充実」とし、「対話的な学び」を引き出すための授業改善や、「対話的な学び」が成立している児童の姿について共通理解することなどの研究に取り組んできた。授業研究により、学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりする導入や、根拠を基に算数的用語、図、式を用いて、説明したくなる問題の設定が、「対話的な学び」を引き出すために有効であることが分かった。

また、「対話的な学び」の充実を図ることは、国分寺中学校区小中一貫教育における実践研究テーマ『学び合いを深める 聴く、伝える、関わる力の育成』にもつながるものと考えられる。本年度は、「伝える」が重点となり、本校における「対話的な学び」の研究と重なっている。

今年度も算数科における「対話的な学び」を充実させることをサブテーマとし、これまでの研究を生かしながら、「対話的な学び」に向かうための授業づくりから、「主体的な学び」につなげるための振り返りの活用なども含め、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業改善に努めていきたい。

### (2) 研究の仮説

算数科において「対話的な学び」の工夫・改善を推進することにより、「見方・考え方」を働かせた深い学びの実現につながるものと考えられる。

## 3 研究内容

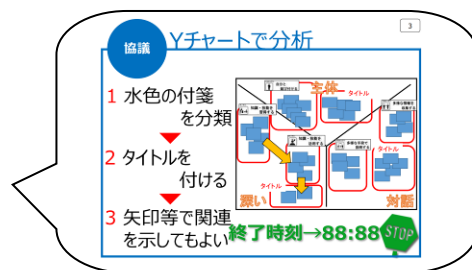
### (1) 授業改善の視点

- ① 「対話的な学び」が成立している児童の姿の共通理解
- ② 身に付ける力が明確に分かる単元づくり
- ③ 「対話的な学び」を引き出す授業展開

- ア 学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりする導入
- イ 根拠を基に算数的用語、図、式を用いて、説明したくなる問題設定
- ウ 既習の知識や技能を活用して自分の考えを書く活動
- エ 正確に伝えるための手立て（「授業で使いたい言葉」の活用）

### (2) 指導方法の工夫

- ① 学習課題、めあての提示、板書の工夫、教室環境づくり
- ② 発達段階に応じたノート指導（教科書に掲載されている形式を基準に統一）
- ③ ICT の効果的な利活用
- ④ 基礎基本の定着（ドリル・テストの活用）



⑤振り返りにおける共通理解

(3) S&U コラボ事業を通じた主題への取組

①授業研究会

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等	
9月24日	5年	「図形の角」 図形の角を調べよう	<p>・既習事項を基にして、自分の考えを表すためのワークシートの工夫</p>  <p>◎見通しをもって学習に取り組めた。また、自分の考えを友達に伝える活動では、式、言葉、図などを使うことによって、根拠をもって説明し合うことができた。</p>	<p>・板書の工夫と ICT の利活用により、思考の軌跡を次時につなげる</p>  <p>◎前時までの内容や当日の流れが、板書で分かるため、問題の自力解決の助けとなった。また、ICTを使うことで、簡単な操作でたくさん試すことができた。</p>
12月9日	3年	「小数」 数の表し方やしくみを調べよう	<p>・小数の仕組みを調べる必要性を感じさせる導入の工夫</p>  <p>◎数の大小で勝ち負けを決めるゲームをするという設定が、児童の関心意欲を高めた。2つの数の大小を比べる問題において、児童は、目的意識をもって問題解決に取り組むことができた。</p>	<p>・担任が児童に問うことで「対話的な学び」を引き出す</p>  <p>◎全体共有の中で、児童の発言を受けた教師が問い返すことで、より詳しく説明しようとしたり、自分の間違いに気付いたりするなど、対話により学びを深めることができた。</p>

②講話

月日	講師	講話内容
7月31日	宇都宮大学 日野圭子先生	「主体的な学び」につなげるための振り返りの活用も含め、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業改善について

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①既習事項を基にして考えることは、児童にとって見通しが立てやすく自信をもって自分の考えを表現することにつながる。「対話的な学び」を引き出す有効な手立てであると分かった。
- ②板書や ICT によって残した思考の軌跡や、「振り返り」から見取った児童自身が感じている課題を次時の学びに生かすことができた。

(2) 研究の課題

ペア学習で「対話的な学び」が成立していないペアもあった。ペア活動の支援の仕方や対話の質の向上をさらに図る必要がある。